

キナバル三十年

ボルネオ再訪

コタキナバルの風

二つの墓地から

キナバルの一夜

サンダカンへ飛ぶ

白骨街道を往く

パダス川叙景

彷徨えるボーフォート

タワオのたより

ラプアンの終末

彌勒

追想のクエゼリン

プロロオグ

玉碎まで

歴史への抒情

1

1

12

22

35

49

66

80

97

118

129

177

191

191

202

214

建碑をめぐって

エビロオグ

サイパン紀行

出発まで

空港について

戦跡をめぐって

視光への戒め

サイパン戦ノート

参考文献

ボルネオ関係書誌

あとがき

223

234

241

241

245

251

256

278

295

296

298

イラスト・小橋隆之／湯山まき子／酒屋進

写真・小橋隆之／松橋政敏／中石妙子

口絵二頁見聞ネーム（コタキナバル空港と市街／一九七五年）
カット・マレーシアの国鳥「犀鳥」

三十年ぶりのボルネオ再訪に際して私に割りあてられた役目は記録係というものであった。果して私がその任であるかどうかは別として経緯上、ともかくなにかを記録してみようとしたのが、この「キナバル三十年」である。要するに極めて個人的なインサイド・レポートということになった。

それに「ラフアンの終末」と「彌勒」の二篇をくわえてボルネオ関係の補遺篇とし、さらに太平洋戦争を主題とした「追想のクエゼリン」、「サイパン紀行」をあわせて一冊にまとめ、これに『わが戦争鎮魂曲』という副題をつけた。

いわば不協和音の組曲による協奏曲になぞらえたもので、はたしてこんな鎮魂曲があるのかどうかは私もしらない。しかし、演奏協力者に負うところが過半である以上、これはまぎれもなく協奏曲ということにして、タクトを揮った私など無視して貰いたいという意味も含めたわけだ。本来ならばここに「協力をねがった協力者のひとり一人の名をあげて三顧の礼をつくすべきだが、本文の到るところにご登場をねがったので割愛させていただいた。出版の労に感謝しつつ。

一九七五年七月十五日

松 本 國 雄

検印廃止

著者略歴

1917年宮城県生。早大政経。日中戦争(1938)及び太平洋戦争(1944)の二回にわたり召集。編集・出版の仕事を経て現在に至る。主なる著書・陣中手記「幾山河」(1940)、「盤盤祭」(1941)、「風立ち」(1943)、「キナバルの東」(1973)、その他、釣り関係の著書など。

現住所・神奈川県鎌倉市腰越5-12-8

キナバル三十年

定価 2,500 円

©1975

昭和50年8月10日 印刷

昭和50年8月15日 発行

著 者 松 本 國 雄

発行者 瀬 上 祐 史

印刷・太平印刷

製本・河上製本

発行所 株式会社 金剛出版

東京都文京区水道1-5-16

升本ビル2階 (〒112)

振替東京 34848

電話 (03) 815-6415 (代)

0095-751007-2354